

の み が わ

2006年5月2日発行(通算第41号)
 連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24
 発行 大坪庄吾方 呑川の会
 呑川の会 e-mail s.ootubo@nifty.com
 呑川の会 HP <http://homepage3.nifty.com/nomi/>
 高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



春の渡り鳥シーズン到来!

遠く南の国からやってきた渡り鳥を観察し野鳥について理解を深めませんか・・・

呑川に魚だけでなく、かわいい野鳥たちが沢山やってきたらどんなに楽しいでしょう。

普段野鳥をじっくり見る機会が無い我々に、今がチャンスです。4月の後半から5月半ばのごく短い期間、遠く南の国からやってきて、この日本で羽を休め、栄養をとり、すぐに北の国へ飛び立つ渡り鳥がたくさんやってきます。

この時期なら、野鳥が苦手な人でも多くの鳥たちの観察が出来ます。シギやチドリたちのゴカイやカニなどを食べるしくさも、きっと観察できると思います。そして渡り鳥たちにとって、河川の河口にある干潟がどんなに大切であるかよく判ります。案内してくれるのは、この場所を大田市場でつぶすのをストップし、野鳥の楽園を作る運動をしてくれたグリーンボランティアの皆さんです。この機会に美しい野鳥の世界にはまってみませんか・・・

記

2006年5月21日(日) 14時50分 東京港野鳥公園 入り口集合。
 入場キップ(300円)を買ってお集まりください。20名以上集まれば団体割引で240円になります。
 そこからネイチャーセンターに移動し 15:00~16:00 野鳥観察

16:00~17:00 野鳥勉強会(視聴覚室)

集合時間は野鳥観察をする干潟が干潮になる時間にあわせて決めました。15時から始められるように10分前に集合することにしました。(現地解散 参加費 500円)

*交通の便が悪いため、十分時間を取ってご集合ください。JR「大森駅」東口または、京急「平和島駅」から森24、25、32、36「野鳥公園」下車 徒歩5分 バスは1時間に2本程度です。大森駅から20分~25分程度かかります。都営バス乗り口で待たないでください。日曜は大田市場が休みのため、利用者が無く運行していません。また京急「平和島駅」からよりも大森駅からの方が便数が多く、多少便利です。いままで大井町から出る便もありましたが、今は中止されています。

*双眼鏡があれば持ってきた方がいいですが、野鳥公園で借りることも出来ます。

なお、会員以外の方も興味をお持ちの方はご参加ください。

呑川の会当面のスケジュール

5月21日(土)	野鳥勉強会	東京港野鳥公園入り口	14時50分集合
6月2日(金)	18時30分	定例会	池上文化センター 第二集会室
6月24日(土)	14時~	総会	蒲田小学校 会議室

内川 30 年後の姿

内川河川整備計画が公開される

内川河川整備計画が都建設局河川部のホームページに掲載されました。河川整備計画は 1997 年の河川法改正で 2 級河川について都道府県に作成が義務付けられているもので、都建設局のホームページには江東内部河川について 2 番目に掲載されてます。

すでに読まれている方も多いと思いますが、今年度中に作成が予定されている呑川の整備計画にも関係していると思いますので、その主要点をご紹介します。

まず流域及び河川の概要として地形、地質、気候、人口、産業、土地利用、交通、歴史と変遷等に触れた上、「内川をよみがえらせる会」の内川清掃、「大森青べかカヌークラブ」の内川観察カヌーが写真入りで紹介されています。

次の河川整備の現状と課題としてまず洪水対策のうち、高潮対策は 1969 年(昭和 44 年)8 月に内川水門及び排水機場が整備され治水安全度は大きく向上し、伊勢湾台風級の大型台風に備える対策は完了しているが、河口から 500m の区間の右岸は軟弱な層があり、液状化する可能性があるとして指摘されています。一方流域の浸水被害は小規模のものも含めると数年に 1 度、発生しているが、これは内川から溢れたものではなく、いずれも下水道の排水能力の不足によるもので、内川の河川としての水の流下能力は下水道局との協定による 18 m³/秒は確保しているとしています。

さらに整備計画は内川の水量、水質、河川の生態系、植物、魚類・鳥類・その他の動物の生息状況が大田区の資料等も交え紹介されていますが、特に河口部に、干潮時に露出する干潟があり、動植物の生息・生育環境が形成されていることが内川の大きな特徴であると指摘しています。

以上のような現状を踏まえ、整備計画自身についてはまず計画期間は概ね 30 年とし、計画の基本理念を「まちとともに生きる水辺の実現」、「いきものたちと出会える水辺の創出」と定め、地元自治体や地域住民、NPO との連携、協働により地域づくりと密接に関わり合った河川の整備を実施するとして、具体的な内川のハード面の整備事項としては次の 3 項目を掲げています。

1. 河口・水門から大森橋までの 0.55km の耐震工事

これは上記の右岸の 500m の軟弱層に対するものです。

2. 内川の特徴であり鳥類の休息、採餌の場である河口部の干潟の保全(河口・水門から新橋までの 0.25km)

3. 大森橋から新田橋の間に現在新橋から下流側左岸に設けられている遊歩道と同じような遊歩道の設置。

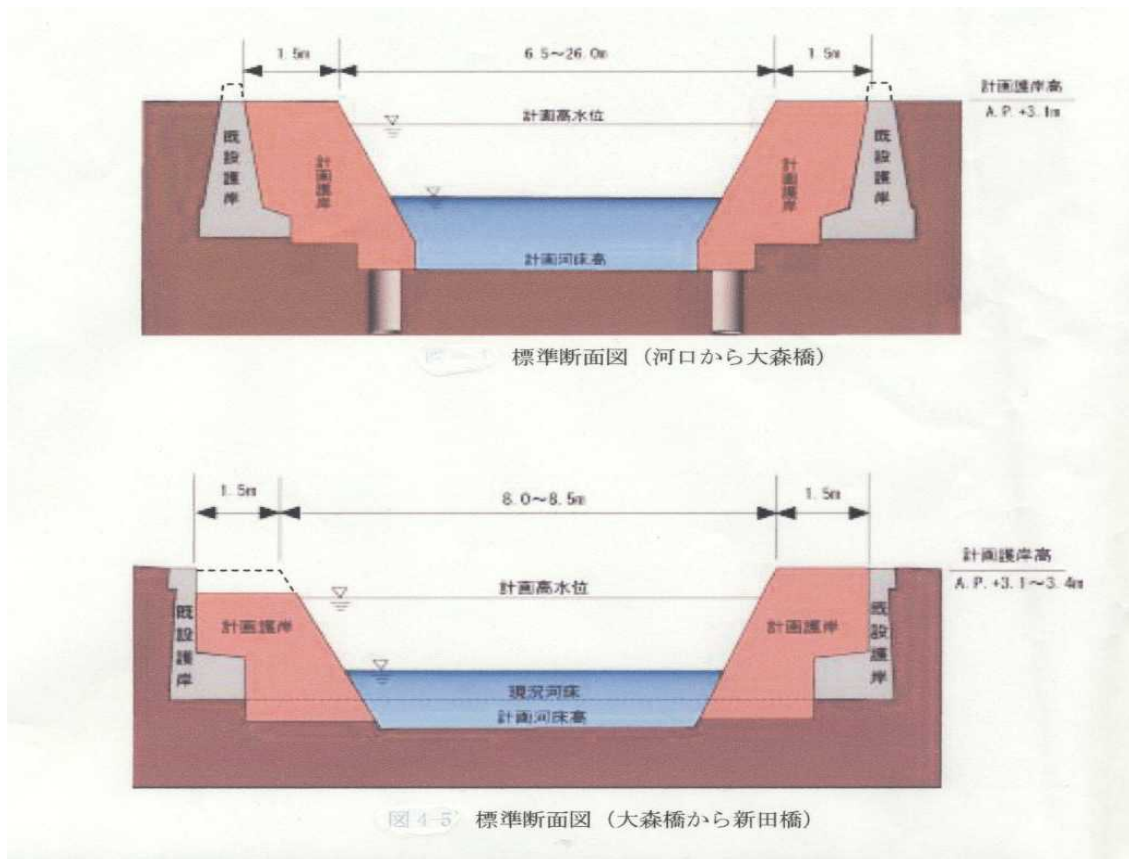
これは現在の川幅が下水道局との協定による河川としての流下能力 18 m³/秒に対し余裕があるので、その余裕部分の一部を活用し、護岸を増強するとともに、その一部を隣接道路より一段階下げて幅 1.5m の遊歩道を設置しようとするものそれぞれ項目の具体的な内容は今後の実施計画の中で検討してゆくとしています。

さらにソフト面においては流域連絡会等の場を通して河川の整備、維持管理に地元自治体や地域住民との情報や意見交換を行い、河川に対する住民と行政との共通認識を醸成し、良好なパートナーシップの形成に努めるとともに、河川清掃など、日常的な管理について意欲的な市民団体等を支援するなど住民参加を推進していくと述べています。

最後に長期的な対策として総合的な治水対策として降った雨をできるだけその場に溜め、地下水の涵養とともに河川の平常流量の回復にも寄与するよう望ましい水循環の形成を推進するとしています。

整備計画自身は以上ですが、別にこの整備計画をホームページ上に縦覧し求めた住民意見がその

回答とともに掲載されています。



以上が内川河川整備計画の概要ですが、私の感想では洪水対策、親水性、生物、住民・NGO 参加、水循環等必要事項はきちんと押さえ バランスよくまとまっていると思います。あとの問題は、この整備計画を受けた具体的な実施プランがどのようなものかということでしょう。例えば護岸にしても、そのデザイン、材質、形状、植物・魚のなじみやすさ等々、その具体的内容により大きな差がでるでしょう。それは「子どもの夢 東京の川」という都建設局に期待するとともに都民側も実際に利用する立場でよいプランを検討していく必要があると思います。(福井 甫 記)

**呑川樹木観察ウオーク
(蒲田 J R 鉄橋から河口)**

折戸 清

3月21日に蒲田の J R 鉄橋から河口まで、呑川の第3回樹木観察ウオークが実施された。当日は絶好の春日和に恵まれ、参加者は12人と多かった

朝10時に蒲田駅東口に集合し、先ず J R 鉄橋のすぐ下流にある宮之橋へと向った。宮之橋の左岸にはたもとにコンクリートの護岸の割れ目にキリが健気に生えている。これこそ都市河川を象徴する気になる木だが、いずれ川の障害物として撤去されるだろう。

今回は日差しが強いこともあり、河口まで川の右岸を歩くことにした。御成橋から菖蒲橋までの左岸には蒲田小があるが、川べりは緑道になっており桜並木がある。小学校の校庭にもサクラの木があり、蕾はだいぶんふくらんでいる。

仲之橋から京急蒲田の鉄橋までの右岸も桜並木が続いている。なかには数輪咲き始めていた。夕方のテレビを見ていたら、丁度この日に東京は開花宣言をしていた。

京浜急行の高架工事のために回り道をして踏切を渡り、第一京浜国道が通る夫婦橋の右岸のたも

とには水際まで近づける親水公園がある。ヒイラギナンテンが黄色の花をつけていた。ツツジの木も多いので花時は見事だろう。なお、旧夫婦橋の親柱も公園の中に保存されている。

天神橋の右岸のたもとには北野神社がある。天神様なので梅の木が多く花盛りであった。川の水も下流のこの辺りまで来ると海水が混じるせいからかたいぶ澄んできた。ただ、ここから先は高潮対策のためのカミソリ堤防が続き、歩きながら川面を見ることができないのが残念だ。

清水橋の右岸たもとにコブシの木があり、真っ白な花が満開で、とてもすがすがしい気分になった。

宝来橋と北糞谷橋の間の左岸にある民家には樹形が見事なスダジイの木がある。幹が二股に分かれているが、近くに住む会員の清水さんの話では、戦時中に焼夷弾がこの木に落ち、それで二股になったのだそうだ。北糞谷橋はハイカラな橋で、橋のたもとの小公園も清潔で気持が良い。

八幡橋の左岸のたもとにある八幡神社には、イチヨウ・ムク・タブ・ケヤキ・エノキなどの保護樹が多く、対岸からはイチヨウが空高く伸びているのが目立つ。ここは、歴史的にも有名な子安八幡で、以前大坪代表に案内してもらったことがある。

正午近くなったので、産業道路が通る呑川新橋の左岸たもとにある親水公園で昼食をとる。この公園も水際まで近づく事ができ、サクラやクスノキなどの樹木が多い。

ここから河口までは兩岸とも川沿いの道はないので、一旦呑川に架かる最後の橋である旭橋まで戻り、そこから河口までは左岸を歩く。

大森一中のところで呑川河口に達し、水面を隔てた対岸に羽田飛行場を望む緩傾斜の防潮堤で一服する。頭上には空がいにいに拡がり開放感がある。女性会員が堤防でツクシを摘んでいた。

帰りは蒲田まで川の左岸を歩くことにした。旭橋から少し上流左岸に桜梅公園という築山もある立派な和式庭園に立ち寄る。名前の如くサクラとウメの木が多く、そのほかクロマツ、モミジ、マキ、サルスベリなど日本に自生する樹木も豊富にある。丁度ウメが満開で、ボケなどの花も咲いていて春らしい景色を呈している。この辺りの川の両側には釣り船が丸い留されているが、カルガモが数羽泳いでいる姿も見られた。

折からWBCの野球試合中で、携帯ラジオを聴きながら歩いていた会員もいた。優勝が決まると疲れも忘れて途中2つの公園に立ち寄りながら呑川新橋まで歩く。呑川新橋から夫婦橋までの左岸もカミソリ堤防が続くが、南向きで風も弱いせいから川べりの家で育てている草花の生育が良く、歩く人の目を楽しませてくれる。

京浜蒲田の喫茶店でコーヒーを飲みながら、夕方5時近くまで樹木マップのまとめ方などを話し合う。今日は本当にウォーキングには最適な日和であった。

樹木に詳しい会員の可児さんには、3回にわたる観察ウォークでいろいろ教えていただき、本当に有意義な行事であったと感謝している。

(3月22日)

呑川の呼び方 雑感

福井 甫

呑川をなんと呼ぶか、「のみかわ」か「のみがわ」ということは、会の中でもこれまで何回か話されてきたが、今回 西行政センターまちなみ整備課から問い合わせがあったので、あらためて調べてみた。私自身は「のみがわ」と濁って発音しているが、実際に目に付いた資料で「のみがわ」と濁っているのは「角川日本地名大辞典」角川書店 1978.10、「河川大事典」日外アソシエーツ 1991.2、佐藤正午「ジャンプ」光文社、小里直哉「呑川煩惱流し」で、はっきり「のみかわ」とし

ているのは世田谷区の呑川親水公園の工事を担当され当時玉川総合支所勤務だった東麻由美さんの「呑川親水公園の整備について」である。昭和41年版「呑川は流れる」では呑川そのものにフリガナはないが「呑川新橋」「呑川橋」はそれぞれ「のみかわしんばし」「のみかわばし」とある。他に「大日本地名辞書」富山房 1903.10、「幸福」向田邦子、は「のみ川」で、石垣りん「呑川のほとり」にはフリガナはなかった。「新編武蔵風土記稿」にも残念ながらフリガナはない。

一方都の通達があるというので建設局河川部に問い合わせたところ、平成8年12月10日付け都建設局河川部長名の「河川名板の標記方法の改正について」という通知がある。これは平成7年の都の行政監査で河川名板の標記方法等を見直すよう指摘されたことに基づき、アンケート調査等により都内の全河川の呼び名をローマ字表記し統一したもので、呑川は「Nomi-Kawa」となっている。

他の川については例えば多摩川、目黒川等は「がわ」で荒川、内川は「かわ」、山についても富士山は「さん」、羊蹄山は「ざん」、駒ヶ岳は「たけ」、谷川岳は「だけ」と普通は呼ばれていないだろうか。これが英語では「K」と「G」、「S」と「Z」、「T」と「D」が混同されることはないのではないか。そういえば工場勤務をしていた40年ほど前、私より30歳ぐらい上の職人さんが「クレーン」のことを「グレーン」といっていたのを思い出す。

発音の専門家でないのでわからないが、要はその上の字句との続き具合等による発音のしやすさ、語感などにより両方あるということなのだろう。「日本」も「ニホン」と「ニッポン」でときどき新聞記事になっている。どちらが正しいということでもないだろう。

(この原稿は白石さんの協力を得ました。)

福井 甫 記



「のみかわ」の大田区表示板

報告 呑川の植物写真と呑川マップを展示

エコフェスタワンダーランドに参加

大坪庄吾

2月12日(日)、洗足池小学校を会場に環境問題にかかわりのある諸団体が参加する「エコフェスタワンダーランド～地域から考える地球の未来～」の催しがあり、呑川の会も参加しました。

呑川の会は今年度の活動として取り組んできた「樹木調査」の写真を展示して、呑川流域にはこんなにすばらしい自然があることを知らせることにしました。

準備のために1月21日(土)、蒲田小学校にそれぞれが撮った写真を持ち寄り選定作業をしました。おりしも雪が降り出しましたが、室内は暖房があって快適でした。

それぞれが持ち寄った写真を上流から下流まで分類し、選定していきました。とくに桜のすばら

しい写真が多かったため、桜コーナーを設けることにしました。全部で 53 枚となり、みんなでコンビニに行ってカラーコピーで拡大しました。思ったよりよい仕上がりでした。

前日の 11 日午後、会場となった 2 の 1 教室に数人が集まって、模造紙 9 枚に写真を張りました。別に以前に作った「呑川マップ」も展示することになりました。



呑川の会の看板

2 の 1 教室は「おおたく環境探検隊」と一緒に使うことになっていたため、当日はたくさんの親子が訪れ、折り紙や木の実細工などを楽しんでいました。壁面には洗足池小学校の子どもたちの自画像も張っており、よい雰囲気でした。

ときどき関心のある方が熱心に見ていき、質問のある方には会員が応えたり、「樹木調査」のプリントも差し上げ、喜ばれました。

送られてきたアンケートのまとめを見ると 14 人の方が「よかった、面白かった」を選択しています。展示を作った面々も「呑川にはこんなにすばらしい植物があるんだ」と自画自賛していました。



上流から下流へ 呑川の樹木の展示の一部

作成した展示物は、まだ保存しています。模造紙 10 枚分ありますが、会場さえあれば再度展示したいと話合っています。



呑川の桜の展示

写真は清水良一さん提供

神田川中流・お花見ウオークに参加して

菱沼公平

4 月 8 日(金)10 時、JR 山手線高田馬場駅に集合し、白石さんの案内で実施されました。当日は日程変更、桜も峠を過ぎ、天気予報もあまり芳しくない中で行われたため、参加者は 7 名で、私が参加したウオークでは最少で、少し残念でしたが、内容は変化に富み、桜も盛りが過ぎたものの、桜吹雪がすばらしく、川を流れる花びらも素敵でした。

ウオークは神高橋からスタートしました。ここから高田馬場までの間に親水公園・親水階段が整備され素敵な空間ができていました。高田橋の下流で妙正寺川と落合からの処理水が分水路として地下を流れてきたものがここで神田川に合流していました。

明治通りの高戸橋下流からは兩岸は桜並木で、盛りを過ぎたとはいえ、まだまだ素敵な眺めでした。風が強かったため、桜吹雪にも風情を感じることができました。また、この高戸橋下流の急流には魚道も整備され、流れの変化も見ることができました。そしてそこから下流には川底の岩が露出しているところが多く、流れに浮いた花びらと露出した岩に集められた花びらとの対照がとても面白く見ることができました。

面影橋たもとの会社の入口脇にひっそりとあった「山吹の里」の碑と山吹の花が印象的でした。神田川を少しはなれた甘泉園を散策しました。この甘泉園は、八代将軍徳川吉宗の息子達に与え

られた將軍繼承権のある御三卿の内の清水家の下屋敷にあった庭園で、回遊式庭園として整備され



高田橋上流の親水階段



高戸橋下流の魚道部分



高田橋下流の分水路合流点



豊橋下流の岩の露出部

一般に開放されています。この庭園の裏には、堀部安兵衛の功績をたたえる碑と水稻荷神社がありました。

面影橋に戻り、神田川の流れと桜を楽しみながら新江戸川橋公園まで歩きました。この公園は、肥後熊本藩の藩主、細川家の下屋敷であったものを東京都が買い、公園として開放したものです。私たちはここで昼食にしました。しかしこの昼食中に天気予報通りに雨が降り出し、屋根のあるところに避難しました。雨とともに気温が急激に下がり寒くなりました。しばらく待ち、雨が小降りになったので傘を差しながら庭園を散策しました。

その後、神田上水の守護神と言われる小さな水(すい)神社を見て、すぐそばの関口芭蕉庵を見学しました。この庵は芭蕉が深川に移り住む前の3年間を過ごしたところといわれています。ここも回遊式庭園になっており、雨上がりで濡れた花や新緑がとても美しく見えました。

次に椿山荘の庭園を散策しました。目白台地を巧みに利用した自然庭園と現代的なホテルが混在し、不思議な空間を作りだしていました。チャペルの鐘が鳴り、新郎新婦がにこやかに現れ、祝福の歓声があがり、とても幸せそうな空間が生まれていました。静かにたたずむ木々や花々との対象の妙がまた面白く感じられました。

散策の最後は神田川沿いに作られた江戸川公園でした。私の感覚では神田川周辺の公園に江戸川の名がつくことに違和感を覚えました。昭和20年代までは、この辺りを流れていた神田川を江戸川と呼んでいたということに納得しました。煉瓦造りを模した親柱の大滝橋付近には、かつて神田上水の取水口の大洗堰があり、流れはここで二分されていたそうです。またこの公園では笑顔で元気に歓声をあげ遊んでいた子供たちがとても印象的でした。周囲の桜の下ではお花見と、明日の場所取りの張り紙が数多く見られ、先週の土曜の賑わいが想像できました。そしてこの公園の終点

である江戸川橋でお花見ウオーキングが終了しました。

多少の雨と、少し盛りを過ぎた桜でしたが、事前の準備もすばらしく、お花見を含め変化に富んだ楽しいウオーキングでした。これからもよろしくお願ひいたします。



ウオーキングに参加された田中英美子さんから寄せられたスケッチです。

カラー原画のやさしい感じがでないのは残念です。

呑川の下水道越流による汚染の研究に協力を

ロンドン大学の社会学部で地理学を専攻され、ご実家が奥沢の大軒恵美子さんが呑川を通して合流式下水道の越流による川の汚染について理学士論文をまとめたので、協力してもらえないかという連絡がありました。

呑川の会としても、その問題は最重要課題の一つであり、それを研究対象とされることは大変喜ばしいことなので、できる限りご協力する旨お答えしました。本年6月ころ、一時帰国され現地調査されるとともに呑川の会の話も聞きたいとのことですので、その節は皆さまのご協力をお願いいたします。

そして LONDON RIVER THAMES, PARIS SEINE, & TOKYO NOMIGAWA
となればよいですね。 (福井 甫 記)

蒲田小学校の5年生が呑川の学習

5月11日午後、上記の学習のゲストティーチャーの依頼がありました。大坪会員が行くことになりました。環境問題にしばった学習の予定だそうです。

編集後記

花冷えのため長く咲いていた桜も終わり、ハナミズキ、モッコウバラの咲く季節になりました。今回、久しぶりにニュースの編集をしました。いつもは、一太郎でしていたのですが、ワードを使ってしたのは始めてです。みなさんから原稿や写真がメールやFAX、速達などで送られてきたものを編集計画にしたがってならべただけのもので、写真の取り込みには苦労しました。次回にはもう少しましな編集をしたいものです。 (大坪庄吾記)